

地は多くはありません．このように，カニ類は底質により微妙にすみわけをしています．

チゴガニの腹面のブルーと白いハサミはよく目立つので，遠くからでも見分けることができます．何より，頻繁にウエーピングをするので，この方が分かりやすいでしょう．ウエーピングとは，あたかも万歳をするようにハサミ脚を上下する行動で，同時に背伸びします．これを集団で行なうので，見えていて退屈しません．雌より雄の方がしょっちゅうウエーピングをするようです．浦戸湾での観察では，2秒以内にウエーピングをするようです．ウエーピングの合間にはせっせと餌をとります．



ウエーピング中の雄．2004年8月31日西灘で撮影．

餌は底質に堆積した微小な有機物のかけらや，そこで繁殖している単細胞の藻類をふくむ微細な生物です．

動く物の気配を感じると，すぐさま穴に戻ります．カニにも個性があり，すぐまた出てくる個体がいる一方，なかなか慎重な個体もいます．

潮が満ちてくると，脚で器用に砂泥を集め，穴に蓋をします．蓋の厚さは1 cmもあり，穴の中で次ぎの干潮を待ちます．



視餌中の雌．2004年8月31日西灘で撮影．

2004年11月14日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，  
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します．複製ならびに内容についての問い合わせはFAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします．